

社会福祉法人 清水あすなろ福祉会

法人だより

福祉情報を発信します

風の子保育園・あすなろの家・ともの家

No. **41** 2025年10月20日
(令和7年)

静岡市清水区山原 871-2
Tel 054-363-2046
Fax 054-363-0522

ともの家

～東日本大震災忘れかけている私たちへ～

8月9日、地域発信事業の一環として講演会・映画会を開催しました。当日は、ともの家の仲間、家族、職員などを含め、101名の参加がありました。

講演会では、津波の緊迫した状況が語られた

講演会には、東日本大震災発災時、岩手県石巻市の公立中学校に勤務していた現役の中学校の教諭を講師にお招きしました。当日、校庭に避難してきた地域の住民とともに160cmに及ぶ津波に襲われ、体育館2階通路で二晩を明かし、水が引かない体育館から、渡り廊下の屋根を伝って、校舎3階へ移動した壮絶な体験。屋根を歩く恐怖はもちろんですが、屋根から転げ落ちる危険と、食料、水、排泄も出来ない体育館の狭い廊下に留まる危険、どちらの判断が正しいか、混乱の中で移動を決めた恐怖について「誰も屋根から落ちることなく校舎に移動できたから良かったけれど、誰かが怪我をしていたら、判断が間違っていたと自責の念にかられるし、責められることだってあった」と、精神的に追い込まれた緊迫した状況が伝わってきました。



映画「星に語りて」は陸前高田を舞台に、震災時の障害のある人たちの実態を基に描いた作品でした。県外から支援に入った障害事業所の職員たちが、個人情報保護法が足かせとなり役所で情報をもらえなかったこと。「避難所に行けば迷惑が掛かるから」と、電気もつかない家でひっそりと身を寄せ合っていた障害者とその家族の切ない状況が描かれていました。

南海トラフ地震に備えて…「自分の命は自分で守る」

南海トラフ地震の想定では、清水区は2分で11mの津波が到達、津波での死者は70%になるとされています。災害時は誰もが自分のことで精一杯な状況ですが、私たち静岡県人は、明日来ても不思議ではない南海トラフ地震に備える時間があること、その時間を無駄にしないことを改めて心に刻んだ時間になりました。

8月14日（木）震度6強の地震が起こった想定で、3事業合同の防災訓練を行いました。仲間たちを無事に親御さんに引き渡すまでの行動のすべてが緊張した中行われました。「想定外などない」という言葉通り、あらゆるリスクを視野に入れた訓練を今後も続けていきます。

楽しみにしていた「風の子夏祭り」

例年7月におこなっていた夏まつりでしたが、猛暑をさけて9月20日(土)に行うことにしました。風の子の夏まつりといえば、5歳児の太鼓『風の子まつり太鼓』、4歳児の『踊り』、職員の太鼓『海のお囃子』です。

今年度から、幼児保育では3歳児、4歳児、5歳児の異年齢グループ(たてわり保育)を作り、グループでの生活を拠点とした活動を行っています。それに伴い、3歳児も4歳児と一緒に『踊り』に参加することにしました。プールに入る前の準備運動の中で、3歳児・4歳児は『わっしょい・わっしょい』の曲に合わせて、「わっしょい！わっしょい！」と元気な掛け声が響き渡り、子ども達は「もっと、踊りたい！」と、毎日の活動を楽しんでいました。

ドキドキ・ワクワクの太鼓演奏

5歳児は憧れていた太鼓を目の前に、ドキドキ・ワクワク・・・でも、実際叩いてみると思うように叩くことができず・・・葛藤を繰り返しながら、毎日の練習を積み重ねてきました。いつもニコニコしている子どもたちが、バチを手にとると表情が変わり、真剣に太鼓と向き合う姿がとても印象的でした。

職員の太鼓『海のお囃子』は、保護者からも「楽しみにしています！」と言われるように保育と同様、夏まつりの楽しみの一つとなっています。若い職員中心に取り組んでいますが、子どもが仲間と共感しあうように、職員も太鼓を通して一致団結を感じます。



3・4歳児 踊り



5歳児 太鼓



職員 太鼓

雨でも工夫して楽しく

当日は・・・残念ながら雨となってしまう、室内で行いました。参加は、幼児のみとさせていただきました。保護者が見ていることは、いつもとは違うけれど、子どもたちが毎日楽しんできたことを披露する場にできるよう、

保護者の人数を最小限にするなど、入れ替わり制にして見てもらいました。子どもたちは緊張している姿もありましたが、保護者は親から離れたところで頑張っている子どもの姿に、皆さん我が子の成長を感じていただくことができました。幼児の夏まつり実行委員さんのおかげで、お店屋さんも出すことができ、子どもたちはお買い物を楽しんでいました。保護者の方からも、「みかんの力強い声、元気いっぱい叩く太鼓、踊り、見ていて圧倒されました。」「お買い物もお友達と見せ合い、お祭りを楽しむことができました。」等の声が寄せられました。



お店屋さん

くおん 久遠チョコレート事業もうすぐスタート

今期、新規事業として計画を進めている「久遠チョコレート」！ 高齢者の仕事への生きがいを高めたい、あすなろの家をもっと気軽な場所にしたいと考えています。

当初は今年の10月のオープンを目指し進めていましたが、少し遅れて12月初旬のオープンを目指し準備を進めています。そこで現在の進捗状況を紹介いたします。

チョコレート製造工場が完成

あすなろの家玄関の左側、もともとは認知症型デイサービスを行っていたフロアを改修して、製造工場を作りました。7月中旬～8月中旬に行われた職員研修が終了。現在は、試作したものが商品として販売できるクオリティーをもっているのかを、久遠チョコレート本部に確認してもらいながら、合格した商品から日々製造を開始しております。



12月にオープンし、来年3月まではずっとチョコレートシーズンが続きますので、少しでも多くの種類・数を今のうちに用意していこうと頑張っております。また製造工場の一角では、小スペースですが販売も行いますので、お立ち寄りの際ははのぞいてくださいね！ よろしくお願い致します。



製造風景



デイサービス側の庭に面した販売スペース

静岡セノバ近くに販売店を準備中

販売店は、葵区鷹匠町に建設中の新築物件を賃借し、現在内外装工事に入っています。「凸凹で一流」「いろとりどりで一流」あすなろの家が「くおん 久遠」に挑戦する根っこの考えです。

これまで、あすなろの家を作ってきたみんなと地域社会のいろいろなみなんで、この大きな大きな夢を一步一步作り上げていこうと思います。乞うご期待です！



完成イメージ

ちょっと先取り

「クリスマス祭り」ウォークラリーの開催

元気な地域に！さあ、外に出よう！ 笑い合いましょう！歩きましょう！

♡ 11月16日（日）9：00スタート （マルシェは11：00～）

♡ 参加者大募集！ お手伝い・マルシェ出店者も同時募集です。

♡ 参加してみたい方はこちらまで 054-363-0207 （あすなろの家 江川）

戦後80年・私たちの暮らしや平和はどうなる？

理事長 杉井則夫

今年は太平洋戦争が終結して80年ということで、TVや新聞で特集が取り上げられる機会が多くありました。共通しているのは「平和が大切」ということだったのでしょうか。戦後80年間、日本は、公式的には戦争に巻き込まれていません。しかし世界で見れば、各地に武力紛争があります。ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザ地区攻撃といった、人道上でも深刻な事態が進行しています。一口に平和といっても、いざ平和を守ろうということになった時、その方法は武力によるものか外交によるものかで大きく分かれます。

軍事費の抱える問題

戦争になれば、国民の命と財産が大きく損なわれることは自明ですが、国家財政も大きくそこなわれます。ロシアに攻め込まれたウクライナの今年の軍事予算は8兆1千億円で、国家予算の62%に当たります。EU各国の軍事援助も含めれば、その倍以上あるかもしれません。



でも、「平和」な日本の今年の予算で、軍事費は8兆7千億円と、ウクライナより多いのです。もちろん、人口もGDPも大きく異なりますから、日本の国家予算比率では、7.5%にとどまっています。しかし、過去には日本でも、太平洋戦争に入る前の昭和13年には、軍事予算が国家財政の77%にも膨らみ、敗戦直前の昭和19年には、実に国家予算の85.3%にまで達していました。ウクライナやガザ地区の爆撃で、がれきと化した街並みの写真は、空襲で破壊された日本各地の当時の写真と重なります。

今、日本は離島防衛として中国大陆を射程に収めたミサイル防衛網や、攻撃型航空母艦の整備を進めています。同時に、攻撃された場合に備えて、12万人避難計画を策定し、戦争体制の整備を進めています。しかし、もし戦争になれば、真っ先に攻撃対象になるのは基地だけでなく、原子力発電施設や火力発電所、ダムなどといったインフラ施設もそうで、離島だけの問題ではなく日本全土の問題なのです。局地戦争にとどまるという幻想が通用しないことは、ウクライナでもガザでもはっきりしています。

戦争で最初に犠牲になるのは社会的弱者

戦争になった時、真っ先に犠牲になるのは子供、障がい者、高齢者といった社会的弱者です。社会インフラも破壊されますが、同時に国民の資産や働く場所も失われます。

国民の生命・財産を守ると言いますが、戦争になれば仮に領土を守れたとしても、確実に国民の生命・財産は失われます。太平洋戦争では、併せて300万人以上の日本人が亡くなり、国土の大半は焦土と化しました。



敗戦から80年、10年前の安保法制によって今では自衛隊違憲論も聞かれなくなりました。戦争は突然起きるのではなく、周到な準備によって気が付いたときには手遅れ状態が流れです。武力によって平和をまもろうとすれば、果てしなき軍拡競争でしかありません。平和を守れるのは、特定の国との軍事同盟ではなく、どの国とも同様の外交関係を作り、絶え間なき外交こそが平和を守る道だと考えます。